2025 年度事業報告（総括）

【2025 年度の業務執行状況】
2025 年度は、セーリングをブランディングし、戦略的なマーケティング施策と広報施策を実施することにより、セーリングと連盟を応援する個人・企業・団体を拡大すること、連盟の会員や加盟する団体に対し、連盟に関わり続けることに満足できるサービスやメリットを提供するとともに、マーケティング施策の成果を会員に還元すること、新しい「勝ちに行く体制」を継続推進し、ロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会でのメダル獲得を目指すとともに、ブリスベン 2032 オリンピック競技大会に向け次世代選手を計画的に育成すること、多様で幅広いセーリングを支援し、強化することを目標に掲げ諸事業を推進した。

【財政状況】
協賛金獲得見込額の増加やオリンピック強化委員会をはじめとする事業費支出の削減等により、2024 年度と比較して赤字幅が縮小を見込むものの、会員数の伸び悩み等による会費確保など種々の課題が残っている状況を鑑み、各委員会の収支差額の限度目標を設定し、各委員会が基本的にこの収支差額限度の範囲内で委員会ごとの予算案を策定する形で進めるという方針のもと、JSAF の中長期的な収支の均衡、財政面の安定化に向けた 2025 年度予算を策定するとともに、財政健全化活動に取り組んだ。

【組織体制の見直しと強化】
これまでの経営企画室の機能を新たに設置した経営企画委員会に引き継ぐとともに、業務執行理事の担当割や委員会グループ体制を構築し、諸事業にあたる体制を構築した。

現行の役員候補推薦管理委員会を廃止して、役員候補者選考規程を新設した。これにより、公正かつ適正な役員選考を実施するため、理事会と独立した役員候補者選考委員会を設置し、理事定数の削減をはかるとともに、2026 年 6 月役員改選へ向けた一連の役員選考を実施した。

また、2014 年に旧「普及委員会」と「指導者委員会」を統合して組成した「普及指導委員会」について、普及活動領域が広がり多様化した現状を踏まえて発展的に改組し、普及・育成・指導の 3 委員会体制へ移行することとし、2026 年度から新体制で諸事業に臨むための検討を継続して行った。

日本財団助成事業である「海と日本プロジェクト」の対象主催団体（地域）の拡大、ENEOS 様協賛により調達した Mark Set Bot 活用により、環境保全と持続可能な運営、多様性と参加機会の創出、次世代選手の育成と競技の多様化を目指した JSAF Sailing Series を計画的に推進した。

2026 年度愛知・名古屋アジア競技大会、2028 年ロス五輪を視野にいれた広報体制の再構築を目指して、１）JSAF 関係者がより利活用できる JSAF ホームページへのリニューアル、２）JSAF 機関紙「J-Sailing」編集・印刷・発送の一括体制再構築とタイムリーな発行、３）協賛企業獲得事業との連携を視野に入れた広報体制の再構築、４）アジア競技大会組織委員会プレス部門他との連携強化、に取り組んだ。

愛知・名古屋アジア競技大会（愛知・ 名古屋 2026 大会）セーリング競技開催へ向けて、JSAF 経営企画委員会「アジア大会統括チーム」の体制強化を図った。

【海その愛基金による新たな事業への取り組み】
加山雄三氏の理念のもと、故河野博文会長とともに 2019 年に立ち上げた「海その愛基金」の理念（海を愛し、未来の子どもたちに美しい海を残したい、等）を次世代へつなぐため、「海その愛基金海洋環境クリーンプロジェクト推進委員会」の所管の元、全国各地域に「子どもたちが海に触れ・学び・遊び・行動できる海洋教育の拠点」を作り、これを増やしていくことを目指して、関係委員会が連携して具体的事業を開始した。

【JSAF パーパスの制定】
JSAF のミッション、ビジョンに基づいて、JSAF として大切にする価値観を再定義するとともに、組織の存在意義や社会的価値を積極的に体外的に示し、協賛企業や支援者、さらには会員やサポーター・ボランティアなどからの支持・共感の増大などにつなげていくために、パーパス「セーリングの力で、楽しむ心、挑戦する勇気、成長する機会を広げ、海や自然、人々が共生する社会を築きます。」を制定した。

以上